

整形外科の取り組み

contents

- ・新型コロナウイルス院内感染を想定した対応訓練の実施
- ・地域連携研修会の案内

報告

新型コロナウイルス 院内感染を想定した対応訓練 を実施しました

当日の
訓練の様子

当院では、2月11日に最初の新型コロナウイルス感染症患者を受け入れて以来、現在まで約40名の患者さんを診療してきました。患者さんを診療するうえで、我々医療従事者が心掛けてきたことは、『患者さんを治すと同時に自分たちが絶対に感染しない』ということでした。徹底したPPE(Personal Protective Equipment: 個人防護具; マスク、フェイスシールド、手袋、ガウンなどを状況によって使い分ける感染対策)、適切なゾーニング、院内PCR検査の最大限の活用などにより、これまで院内感染者を一人も出すことなく診療を続けています。7月中旬以降第2波が押し寄せ患者数が急速に増加しています。万が一院内から感染者が出た場合を想定し7月20日に対応訓練を実施しました。



対策本部



感染経路探索部門



院内BCP稼働部門



陽性者対応部門

院内で感染者が出た場合を想定し、感染者の行動歴の聴取から始まり、濃厚接触者の割り出しと検査、病棟・外来の診療体制の改編、院内・院外への情報開示など、

- ① 対策本部
- ② 感染経路探索部門
- ③ 陽性者対応部門
- ④ 院内BCP稼働部門
- ⑤ 職員健康管理部門
- ⑥ 院内広報・情報管理部門
- ⑦ 院外情報部門

の7部署に分かれ、自分たちの役割を再認識しました。

今回の訓練を通して、未知の出来事(今回は新型コロナウイルス感染症)に対応するためには、理事長、病院長の指揮のもと、各部署の役割を考えて組織を作り、その役目を明確にしながら病院全体がチームとして立ち向かっていく必要性を再確認しました。

▼ 当日の訓練タイムスケジュール

- 15:00** ・院内職員にCOVID-19抗原検査で陽性確認
- 15:10** ・感染対策局長より院長に報告
・感染経路探索部門、院内広報・情報管理部門招集
- 15:15** ・感染対策本部会議の立ち上げ
- 15:20** ・陽性者対策部門、院内BCP稼働部門、院外広報部門、職員健康管理部門招集し、各部門に分かれて活動
- 16:00** ・訓練終了。部門別に課題を検討
- 16:30** ・古屋甲府市保健所長、平賀病院長 講評

われわれ職員一同は、県民の生命・健康・安全のためこの感染症が終息する日まで全力を尽くします。患者・関係者の皆様にはご不便をお掛けすることもあると思いますが、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。



地方独立行政法人山梨県立病院機構

山梨県立中央病院

YAMANASHI PREFECTURAL CENTRAL HOSPITAL

患者支援センター

〒400-8506 山梨県甲府市富士見1-1-1

TEL. (直通) 055-253-9000 / FAX. (直通) 055-251-7733

整形外科の取り組み

Orthopedic efforts

CHECK

1

新任医師の紹介

2020年4月より2人の医師が赴任しました。この場を借りてご紹介させていただきます。



整形外科
医長

赤池 慶祐

皆様初めまして、赤池慶祐と申します。私は山梨大学を卒業後、ここ山梨県立中央病院で初期臨床研修を修了いたしました。その後は順天堂大学及び附属病院にて整形外科医として勤務・研究を行い、2020年4月より県立中央病院へ戻って参りました。大学病院時代は主に骨軟部腫瘍の診療に従事し、原発骨軟部腫瘍はもとより、特に骨転移領域に力をいれて参りました。

がん患者の「立つ」「歩く」といった運動機能が低下した状態「がん口コモ」を予防することは、がん治療をスムーズに行い、その後の生活の質を維持し、健康寿命を延ばすことにつながります。がん罹患して骨転移がおこっても、より良い状態をなるべく長く保つために、運動器の専門家として各診療科と連携を取りながら、骨転移の診断と手術を含めた治療、管理を行うなど、整形外科医の果たすべき役割は大きいと考えます。

骨や筋肉など、身体運動に関わる器官にできる腫瘍を包括的に対象とした「運動器腫瘍」外来を、毎週木曜日の午後に開設いたしました。がんを治療中の骨転移を有する患者さんで、安静度や外科的治療の適応に悩まれる患者さんがいらっしゃれば、一度ご相談頂きたく存じます。もちろん、原発の骨・軟部腫瘍の患者さんも対象としておりますので、お気軽にご紹介賜れますと幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。



整形外科
医長

江口 英人

2020年4月より整形外科医師として赴任しました江口英人と申します。出身は山梨県甲斐市(旧双葉町)です。北里大学を卒業後、横浜市立大学整形外科教室へ入局し、大学病院・関連病院で勉強し経験を積ませていただきました。「運動器の障害」により「要介護」になるリスクの高い状態のことを口コモティブシンドローム(運動器症候群)と呼びますが、その三大要因として骨粗鬆症、変形性関節症、腰部脊柱管狭窄症が挙げられます。腰部脊柱管狭窄症とは、加齢による椎間板の変性と脊柱管後方の靭帯肥厚・椎間関節の肥大などにより脊髄の通り道である脊柱管が狭くなることによって、腰痛や下肢の痛み、しびれなどさまざまな症状が現れる病気です。現在、国内での推定有病者数は580万人と言われ、高齢者では10人に1人以上と決して珍しい病気ではありません。高齢化社会の進行に伴い、ますます診療機会が増えておりますが、患者さんは必ずしも整形外科を受診するとは限りません。整形外科医以外の先生方の外来に本疾患を疑う患者がおられましたら、ご相談いただき、一人でも多くの患者さんの痛みを軽減できればと思います。

生まれ育った山梨県で勤務できることを大変嬉しく思っています。未熟な点も多々ございますが、山梨県の地域医療に貢献できるよう誠心誠意取り組んでまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

腰部脊柱管狭窄症の 診断基準

右記4項目をすべて満たすこと

- ① 殿部から下肢の疼痛やしびれを有する
- ② 殿部から下肢の疼痛やしびれは立位や歩行の持続によって出現あるいは増悪し、前屈や座位保持で軽快する
- ③ 歩行で増悪する腰痛は単独であれば除外する
- ④ MRIなどの画像で脊柱管や椎間孔の変性狭窄状態が確認され、臨床所見を説明できる

腰部脊柱管狭窄症ガイドライン2011より

当院整形外科の現状

高度救命救急センターに搬送される多発外傷患者に対応するため、外傷患者の占める割合が高い事が当科の特徴です。また、持病を持った高齢者の骨折も多く、他科との連携を密に取りながら、速やかに手術加療を行い合併症の軽減を目指しています。年間手術件数は約1000件ですが、半数以上が臨時手術です。高齢者の大腿骨転子部骨折に対する治療において、手術待機期間は予後に影響する重要な因子と言われております。当院における本骨折に対する手術待機期間は年々短縮しており、2019年には受診から手術まで2日を切るまでになりました(図1)。

	症例数	平均年齢	待機日数	在院日数
2016	62	82.95	3.39	25.4
2017	67	83.9	2.70	23.5
2018	76	84.37	2.63	21
2019	77	83.6	1.9	24.9

(図1) 当院における
大腿骨転子部骨折の症例数の推移

四肢開放骨折は年間約30例あり、骨折治療学会が行っているレジストリーにおいて全国3位の症例数になっております。開放骨折は多数回の段階的治療など専門的な管理が必要となるため、症例の集約化が必要であると言われております。開放創に対する軟部組織再建手術は、形成外科と連携しながら行っております。

今年4月より手術用ナビゲーションシステムが導入されました。ナビゲーションシステムとは術前に撮影したCT画像をもとに手術計画を立てて、術中に赤外線を使用したナビゲートにより、インプラントの位置をリアルタイムに画面上に再現できるシステムです。変形が高度な脊椎変性疾患や変形性関節症に対する手術に活用し、より安全で正確な手術が行われるようになりました。

再生医療(PRP療法)

2019年2月より、県内で最初に多血小板療法(Platelet Rich Plasma療法)を開始しております。PRP療法とは、自分の血液に含まれる血小板の成長因子がもつ組織修復能力を利用した再生医療です。血液中の血小板を多く含んだ部分を抽出し、傷んだ部分に直接注射することにより、組織の修復が促進され、早期治癒や疼痛の軽減効果をもたらします。海外では2000年頃からスポーツ選手のケガの治療に使われるようになり、その後に日本でも限られた施設で行われるようになっております。当院でも、主にスポーツ選手の外傷に対して適応しており、1年間で延べ154例に施行されました。PRP療法は、現在のところ保険診療としては認められておらず、自由診療で行われております。自分の血液を使用した治療であることから、非常に副作用の少ない治療ですので、数ある保存加療のうちの一つの選択肢として、特に既存の治療法への反応が乏しい方への実施をお勧めしております。



地域連携研修会のご案内

9月開催

2020
日時：9月30日(水) / 18:30~19:30

▶ Zoomでの開催

コロナストップ
~当院での取り組みについて~

山梨県立中央病院 副院長 中込 博

**当院における
COVID-19診療の実状**

山梨県立中央病院 肺がん・呼吸器病センター
統括部長 宮下 義啓

10月開催

2020
日時：10月14日(水) / 18:30~19:30

▶ Zoomでの開催

冬場の時期の感染症

山梨県立中央病院 総合診療科・感染症科
医師 神宮寺 敦史

webシステム「Zoom」を用いて開催いたします
パソコン、スマートフォン、タブレットからご参加頂けます

当患者支援センターでは院内・院外に向けた連携のための研修会を
今後も定期的で開催していきたいと考えております。
その都度ご案内させていただきますので、ぜひご参加ください。

研修会の情報はホームページでもご案内しています。併せてご覧下さい。

<http://www.ych.pref.yamanashi.jp/>

紹介状のある初診患者さんは、患者さんご自身による電話予約や、
かかりつけ医によるFAX予約ができます。 **FAX. 055-253-2903**

当院では、日頃よりかかりつけ医を持っていただくことをお勧めしています。
体調に変化があったときはかかりつけ医に相談の上、紹介状(診療情報提供書)を持って受診してください。
紹介状のある初診患者さんは、初診の予約ができます。予約をすることで初診はさらにスムーズになります。

1

**かかりつけの
医院を受診**

紹介状をもらって
ください

2

専用ダイヤルにお電話

以下にお電話ください

☎ **055-253-7900**
9:00~17:00 月~金(祝祭日除く)

①紹介状②電話診療予約申込書
③当院の診察券(お持ちの方は)

お電話前に
準備して
ください

3

受診当日

ご予約30分前に総合案内にお越しください

お持ちいただく物

①紹介状 ②電話診療予約申込書
③保険証 ④当院の診察券
⑤受給者証(老人医療、公費等該当する方)